

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	25	学びを支える環境の整備		
主な取組	○ 「子ども大学」の充実に向けた支援			
	○ 多様な学習機会の提供			
	○ 人生100年時代に対応した学び直しの在り方の検討			
	○ 外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり（再掲）			
	○ げんきプラザを活用した体験活動の充実			
	○ 地域学習の推進を支える人づくり			
	○ 障害者の生涯を通じた学びの支援			
	○ 県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実			
	○ 新しい県立図書館の検討・推進			
担当課	特別支援教育課、生涯学習推進課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
生涯学習を担う未来人材育成プロジェクト	0	<p>大学やNPO、青年会議所、市町村などが連携して実施する子ども大学の組織と内容を充実させるため、成果を各市町村に広めるなど各地域の子ども大学の継続・発展を支援することを通じて、生涯学習を担う人材の育成につなげる。</p> <p>○子ども大学継続・発展に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども大学実施報告書の公開 カリキュラムサポート一覧の情報提供 	<p>令和3年度は、52大学中32大学が実施しており、残る20大学は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> <p>県ホームページに掲載した実施報告書を通じて、コロナ禍であっても工夫しながら実施した子ども大学の事例を紹介するなど、各市町村や県民に対して広く情報提供を行うことができた。</p>	生推
「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業 → 施策24参照				生推
青少年げんき・いきいき体験活動事業	1,351	<p>青少年が、げんきプラザの特色を生かした様々な体験活動事業に参加し、異年齢の子供や地域の大人、ボランティアなど多くの人々と交流することにより、豊かな人間性や社会性、自立心などたくましく生きる力を培い、豊かな感性を育む。</p> <p>○いきいき体験活動事業：9事業 117人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 野外活動やクラフト体験等の自然体験活動を通して、障害のある子とない子、親子や指導者と参加者などが交流する取組を実施 <p>○わくわく未来事業：9事業 312人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の適応指導教室と連携し、登校に不安を抱える児童生徒に、調理体験やレクリエーション等の集団活動を通して、社会性や自立心を育む取組を実施 <p>○のびのびチャレンジ事業：6事業 80人参加</p>	<p>いきいき体験活動事業では、学習のねらいを事前に明確にし、参加者に意識させることにより、自然体験活動を通じた交流を図り、心のバリアフリー化を促進することができた。</p> <p>わくわく未来事業では、仲間と共にコミュニケーションを取りながら調理体験やレクリエーション等の活動を行ったことにより、参加者や適応指導教室の指導員から肯定的な評価を得ることができた。また、通年で、広域適応指導教室への学習支援を行ったことにより、児童生徒との信頼関係の構築につながり、参加者も増加した。</p> <p>のびのびチャレンジ事業では、ジュニア・アスポートに通う児童生徒及び支援員を対象に、人間関係づくりプログラムや自然の素材を生かしたクラフト体験を通して、参加者相互の交流やグループで協力しながら課題解決に取り組む内容にしたことにより、参加者指導員から肯定的な評価を得ることができた。</p>	生推

		<ul style="list-style-type: none"> ・アスポート学習支援と連携し、経済的に困難な家庭の児童生徒に、体験活動を通して、協働して課題を解決する取組を実施 	<p>現状、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊から日帰りとなり、活動時間が大きく制限されている中での実施となっている。このことから、限られた時間の中で各事業のねらいを達成するために、十分な事前準備を行い、参加者との信頼関係を築いた上で実施していく。</p>	
<p>障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照</p>				<p>特教</p>
<p>県立図書館サービス充実・強化推進事業</p>	<p>4,510</p>	<p>オンラインデータベースの整備や資料の収集により、県民の課題解決支援のための重要なサービスであるビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実・強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ビジネス・ライブラリアン研修」の開催（集合・オンライン併用） <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和3年11月9日 ・参加者数：市立図書館職員・県立図書館職員10人 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ①講義「ビジネス支援サービスにおけるレファレンス対応とツールの使いかた」 ②事例発表（県内2館におけるビジネス情報コーナーの実践） ○「健康・医療情報サービス研修会」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和3年10月22日 ・参加者数：32人（市立図書館職員を含む） ・内容：読書療法とは何か ○ビジネス支援関係資料（348冊）、健康・医療情報関係資料（292冊）の整備 	<p>専門資料の購入及び個人契約の難しい専門データベースの運用により、県内の知識・情報拠点としての機能の充実を図ることができた。また、各研修に県内市町村立図書館職員が参加することで、県内図書館職員の資質向上に資するとともに、市町村立図書館を通じてより多くの県民へサービスを届けることにつながった。</p>	<p>生推</p>
<p>新しい県立図書館の検討・推進</p>	<p>0</p>	<p>埼玉県5か年計画において、「分野別施策No26 生涯にわたる学びの推進」の主な取組として「新しい県立図書館の検討推進」を位置付け、新しい県立図書館の検討を県の施策として実施していくこととした。</p> <p>また、令和4年度予算要求において、将来の県立図書館の基本コンセプトや機能、主なサービス等について改めて検討を行い、基本構想を策定するための経費を計上した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予算事業名「新県立図書館整備検討事業」 	<p>県5か年計画に新たに位置付け、基本構想策定経費を令和4年度に予算を計上したことにより、新しい県立図書館の検討を具体的に進めていくことにつながることができた。</p>	<p>生推</p>

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>● 1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合 (%) [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]</p> <table border="1" data-bbox="436 502 1120 630"> <tr> <td></td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>● 割合</td> <td>67.7</td> <td>67.9</td> <td>69.8</td> <td>67.8</td> <td>69.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>●●●● 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>69.0</td> <td>70.0</td> <td>71.0</td> <td>72.0</td> <td>73.0</td> </tr> </table> <p>【原因分析】 生涯学習活動をしなかった人のうち25.9%（複数回答）が「新型コロナウイルスの影響」と回答している。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置もあり公民館等での活動が困難になっていたことが要因と考えられる。 オンライン講座などを実施している事例を情報発信し、生涯学習活動をしやすい環境づくりに取り組む。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8			●●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0	<p>生推</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8																					
●●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>各世代やそのニーズに応じ、学びを支える環境の整備事業は幅広く多様なメニューをそろえる必要があり、体験事業の開催や図書館の機能充実、生涯学習ステーションサイトの運営など多く用意されている。県民の活用次第では学びを継続することができ、とても良い。多くの県民に認知され、活用されるよう様々な機会や媒体を使いPRに努めていただきたい。</p> <p>県立図書館によるビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実において、オンライン研修も活用した研修事業が実施されたこと、またビジネス支援関連資料や健康・医療情報関係資料が整備されたことは、「他部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点」としての新たな図書館の在り方として大いに評価できる。今後、研修の成果を他の図書館にどのように波及するかが課題である。</p> <p>地域の適応指導教室と連携して実施した「わくわく未来事業」は、登校に不安を抱える児童生徒に対する支援活動として成果を示している。げんきプラザは県内の限られた地域にしかないことから、同様の事業を民間団体との連携も視野に入れてより広い地域に拡大してほしい。</p>	<p>特教</p>																								
<p>今後の取組</p>	<p>引き続き各特別支援学校において、芸術家等を招き、生徒に直接実演・講演等を行うことにより、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p> <p>多くの県民が「学びを支える環境の整備」を認知・活用できるように、生涯学習ステーションを始め、様々な媒体や機会を利用してPRをしていく。また、オンライン講座などを実施している事例を情報発信し、生涯学習活動をしやすい環境づくりに取り組む。</p> <p>げんきプラザにおいては、引き続き各げんきプラザの特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の充実を図るとともに、他機関との連携・協力における事例の共有を図る。</p> <p>県立図書館においては、引き続き県民の課題解決支援サービスの更なる充実を図るとともに、調査・相談（レファレンス）事例の共有を図る。また、新県立図書館に関しては、新しい図書館の機能や役割を検討しながら基本構想の策定を行う。</p>	<p>生推</p>																								

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	26	学びの成果の活用の促進		
主な取組		○ 学びの成果の活用の支援		
		○ 「子ども大学」における学びの成果の活用		
		○ 社会教育関係団体等をつなぐネットワークづくり		
		○ 学びを活用した地域課題解決への支援		
担当課		生涯学習推進課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
生涯学習情報の発信	0	<p>生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」により、指導者やイベント、講座などの生涯学習に関する情報を提供し、県民の生涯学習活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報の提供 指導者登録数：593人 イベント掲載数：356件 指導者紹介数：61件 生涯学習ステーションアクセス数：122,134件 	<p>生涯イベント情報や指導者情報など、生涯学習に関する情報を広く県民に提供した。令和3年度の生涯学習ステーションアクセス数は令和2年度と比べて8,000件程度増加した。令和2年度と同様にコロナ禍の影響で、多くの講座やイベントが中止や縮小等になったが、オンラインイベントの特集をするなどコロナ禍でも可能な限りの生涯学習情報の発信ができた。</p>	生推
学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト	2,589	<p>学校と地域全体が協働して子供たちの学びを支え、子供や地域住民の地元への愛着や豊かな心を育むとともに、将来を担う人材育成と地域全体の活性化を促進するモデル事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おがわ学公開授業、研究協議会の実施 ○おがわ学のテキストの見直し テキストを実際に使用した授業実践に基づき、テキストの改善を図った。 ○おがわ学フォーラムの開催（令和3年11月20日、27日） 小・中・高等学校の授業公開、おがわ学体験授業、実践報告などを行った。 ・参加者数 約1,400人 ○おがわ学推進協議会（委員5人）4回 おがわ学の構築・実践に向けての指導・助言 ○おがわ学構想委員会（委員37人）4回 おがわ学の授業、指導計画づくりの協議 おがわ学テキストの作成についての協議 おがわ学フォーラムについての協議 ○おがわ学担当者会議（委員25人）5回 おがわ学の構築・実践に向けての授業、指導計画の企画 おがわ学テキストの見直し おがわ学フォーラムの企画、運営 	<p>小・中・高等学校の教員が地域の方々と連携・協働して授業づくりや授業実践を行い、主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善を進めることができた。</p> <p>おがわ学フォーラムでは、小・中・高等学校の授業公開、おがわ学体験授業や実践報告などを行い、地域の方からフィードバックをいただき取組の改善・充実につなげることができた。</p> <p>おがわ学構想委員会等での協働を通して、目指す児童生徒像を実現していくために、学校と地域がより一層連携・協働していくことができた。さらに、児童生徒の学びを深めていくための連携・協働に取り組んでいく。</p>	生推

越境×探究！ 未来共創プロジェクト	661	<p>県立学校を対象に、地域や社会の人的・物的資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学んだことを実社会で生かす取組を推進する。</p> <p>○学びの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10回開催（オンライン） ・参加人数：38人（学校20、企業・団体13、行政5） <p>○学校と地域のマッチング：9件</p> <p>○「越境×探究！未来共創プロジェクト」フォーラム開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和4年1月12日（オンライン） ・参加人数：約150人 ・内容：全員参加型グループセッション 	<p>学びの場では、オンラインを活用し、教職員と企業・団体の職員とが共に課題解決の方法を学び、実践を行うことができた。</p> <p>学校と地域のマッチングでは、学校が学校以外の教育資源と連携・協働した活動を充実することで、生徒の主体性や思考力・自己肯定感を育成することができた。</p>	生推																								
施策指標の 達成状況・ 原因分析	<p>●生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を地域や社会での活動に生かしている人の割合（%） [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]</p>		<table border="1" data-bbox="436 845 1131 965"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>28.8</td> <td>26.8</td> <td>28.2</td> <td>23.9</td> <td>24.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>29.8</td> <td>30.6</td> <td>31.4</td> <td>32.2</td> <td>33.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 目標値には届いていないが、令和2年度と比較して増加しているのは、オンライン等を活用するなど地域や社会での活動内容が以前と比べて変化してきたことが原因と思われる。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6			年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0	生推
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																					
割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6																							
年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0																					
学識経験者の 意見・提言	<p>3年間実施された「おがわ学」事業は、学びの成果を地域の活性化に生かすための連携・協働体制を作ることができたと自己評価しており、横展開できる好事例となったと評価できよう。生涯学習に取り組む人の割合や成果を地域での活動に生かしている人の割合が、コロナの環境下で、ともに増加しており、県民の意識に変化が見られるとも評価でき、この流れを止めないためにも本事業の一層の推進をお願いしたい。</p> <p>生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」のアクセス数が令和2年度と比較して8,000件程度増加したことは、これからのウィズコロナの時代も見据えて、生涯学習情報についてもオンラインを活用していくことの有用性を示すものと思われる。</p> <p>「越境×探究！未来共創プロジェクト」においてもオンラインを活用してフォーラムを開催し、約150人が参加してグループセッションを実現できたことは、大きな成果である。</p>																											
今後の取組	<p>「おがわ学」の取組を好事例として、他市町村に幅広く展開されるよう情報発信に努める。</p> <p>「越境×探究！未来共創プロジェクト」については、オンライン等を活用しながら教職員と企業・団体の職員による学びの場を実施し、つながりづくりを行うとともに、学校と地域が連携・協働した活動を充実させることで生徒の主体性や思考力・自己肯定感の育成を図る。</p> <p>「生涯学習情報の発信」については、ウィズコロナの時代を見据えて、引き続きオンラインで実施されるイベント情報についても募集し、県民に対して情報を周知していく。</p>				生推																							